

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	65人	算数	65人	理科	65人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	55人	算数	55人	理科	55人
------	----	-----	----	-----	----	-----

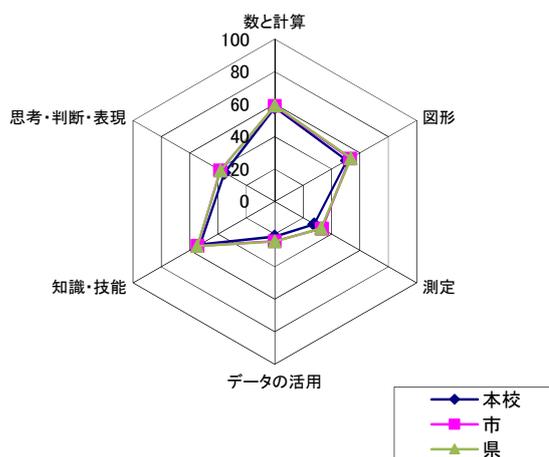
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.0	58.9	59.2
	図形	50.8	53.0	53.7
	測定	27.7	33.1	32.6
	データの活用	21.5	24.4	24.6
観点	知識・技能	52.8	54.3	54.7
	思考・判断・表現	35.6	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

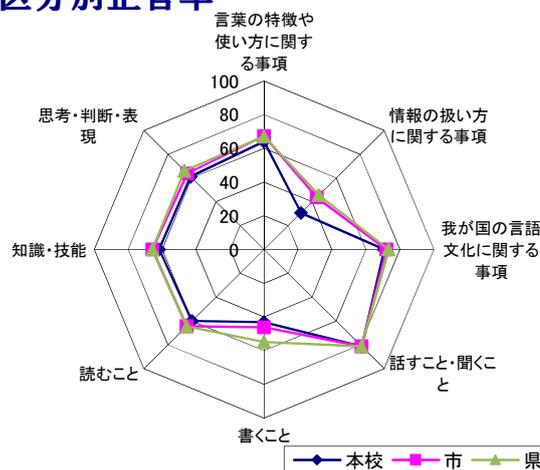
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均に比べてやや低い。</p> <p>○「2けた×1けた=3けた」や「整数-小数第一位」を計算することは、市の平均を上回っており、正確に計算することができている。</p> <p>●万の単位や大きな数の表し方や構成を理解したり、式の意味を正しくとらえ言葉で説明したりすることに課題が見られる。</p>	<p>・今後も教科書や計算ドリルを活用し、繰り返し計算問題に取り組むことで、幅広い分野で基礎・基本の定着を図っていく。</p> <p>・数の表し方や構成を理解させ、その仕組みは数が大きくなっても変わらないことを理解させることができるように、間違い直しや復習の時間を確保し、内容の取りこぼしを防ぎ、定着を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○球の半径と直径について理解し、球の性質を利用して長さを求めることができている。</p> <p>●円の性質を利用して正三角形を作図したり、二等辺三角形の性質を理解したりすることに課題が見られる。</p>	<p>・球のような立体を平面上に表す簡単な図を描かせて球の性質を考えさせるなど、視覚的にも理解できるように指導を継続していく。</p> <p>・図形の性質に着目し、定規やコンパスの性質や使い方について継続的に指導し、操作活動を取り入れていくことで知識・技能の定着を図る。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>●地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求めることに課題が見られる。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取り、重さを答えたり、重さの単位を理解し、合計の重さの大小を比較したりすることに課題が見られる。</p>	<p>・地図を用いて道のりや距離を説明する学習問題を積極的に取り入れて、実生活に結び付けていけるように指導していく。</p> <p>・実際に、はかりを使って具体物を量りながら目盛りを正しく読み取る練習をしたり、重さの単位のしくみについて理解を深めたりすることで、量感を養っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>●目盛りの付け方が異なる複数のグラフについて、数の比べ方を説明したり、棒グラフの特徴と利点を理解し、身の周りの事象について活用したりすることに課題が見られる。</p>	<p>・分かっていること、問われていることなどポイントになる言葉や数値に印をつけながら問題を読んだり、グラフを読み取るときに着目する点(単位や目盛り)に印を付けたりするなど、日頃から問題の意味や問われている内容を確認させるようにする。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	64.1	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	30.8	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	70.8	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	81.5	81.2	81.2
	書くこと	43.1	46.2	54.9
	読むこと	60.0	64.3	64.5
観点	知識・技能	61.7	65.7	65.7
	思考・判断・表現	61.2	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

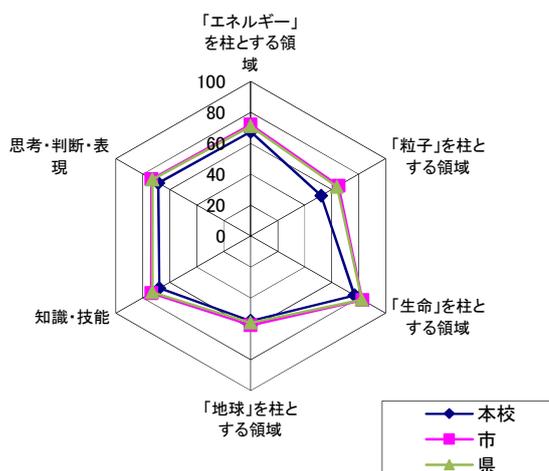
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○「漢字の読み」や「主語や述語」に関する設問では、市の平均より低いが高い正答率の設問も見られる。</p> <p>●「漢字の書き」や「ローマ字の読み」に関する設問では、市の平均正答率より低く課題が見られる。</p>	<p>・漢字の読み書きは、基礎・基本となるものなので、朝の学習や家庭学習において、繰り返し練習をさせるとともに、ミニテストなどでこまめに定着状況を確認したり、学期末や学年末では、更なる定着の教科を図ったりする。</p> <p>・「ローマ字の読み」については、ローマ字ノートやプリントを使い、日常的に慣れ親しむことができるようにしていく。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>●「国語辞典の使い方」に関する設問では、市の平均正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・国語辞典の使い方の学習では、基本的な使い方を丁寧に確認しながらおさえるとともに、授業中に使う機会を設けて活用させることで、国語辞典の使用の日常化を図る。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均と比べてやや低い。</p> <p>●「漢字のへんやつくり」の設問では、市の平均正答率より低く、漢字がへんやつくりから構成されていることについての理解について課題が見られる。</p>	<p>・漢字のへんやつくりを意識した漢字練習に取り組みせ、漢字辞典の活用の意欲付けを図る。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べてほぼ同じである。</p> <p>○「話し手が伝えたいことの内容を捉える」や「司会の役割を捉える」に関する設問では、市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>●「司会者の話し方の工夫を捉える」や「相手に伝えるように、自分の考えを挙げながら話す」の設問では、市の平均正答率より低い。</p>	<p>・今後も自分の考えを整理して話す活動を積極的に取り入れたり、理由を挙げながら相手に伝えるように話す学習活動も取り入れたりしていく。</p> <p>・話し合いをする場面では、自分の意見を発表したり、友達の意見と比べたりすることに加え、司会者の立場を経験させ、参加者の意見をまとめることもできるような機会を増やしていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして書く」設問では、市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>●「指定された長さで文章を書く」や「段落の役割」の設問では、市の平均的正答率より低い。</p>	<p>・自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことはできているので、今後は伝えたいことを文章にする機会を増やしたり、2段落以上の構成で文章を書く方法を重点的に指導したりしていく。</p> <p>・各教科の授業で、調べた事を自分の言葉でまとめるなど文章化する活動を取り入れ、構成や段落・自分の考えを明確にできるようにしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○「文章を読んで感じたことや分かったことを共有する」や「文章の要約を理解する」の設問では、市の平均正答率より高い。</p> <p>●「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える」や「叙述を基に段落の内容を捉える」「叙述を基に文と文のつながりを捉える」の設問では、市の平均正答率より低い。</p>	<p>・朝の読書の時間や「うち読」の時間を活用して、読書活動を推進していき、文章を読み取る力を身に付けていく。</p> <p>・国語の時間に、物語文では情景と心情の読み取りを丁寧に扱ったり、説明文では段落のつながりや構成を確認したりして、文章の中のキーワードを考えさせながら要約がまとめられるよう、読み取りの手順をしっかりとおさえた学習を継続する。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.4	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	52.3	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	76.9	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	54.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	67.7	73.8	72.8
	思考・判断・表現	68.6	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「ゴムをのばす長さや車の動く距離の関係から、車が動く距離を推測する」設問は、市の平均正答率より高い。</p> <p>●「実験の結果から回線の見えない部分について推測する」設問は、市の平均正答率よりも低い。</p>	<p>・実験など体験的な活動を行うときは、事象を捉える、課題を見出す、課題に対する予想をする、実験方法を考えるといった活動を丁寧に行い、課題解決学習となるようにする。</p> <p>・結果から分かることを自分の言葉で文章に書いたり、表現したりする場を積極的に設ける。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●「同じ体積でもものの種類によって重さがちがうことを答える」設問は、市の平均正答率よりも低い。</p>	<p>・材質が同じで形の異なるものを手で持ったり、実際に重さを量ったりする学習を設定し、実感を伴った理解が図れるようにする。</p> <p>・学習して得た知識を身のまわりの現象にあてはめて考えることで、学習と生活の関連の図るようになる。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「昆虫のすみかについて」の設問は、市の平均正答率よりも高い。</p> <p>●「虫めがねの正しい使い方」の設問は、市の平均正答率よりも低い。</p> <p>●「記録カードを比べて分かることを選ぶ」設問は、市の平均正答率よりも低い。</p>	<p>・虫めがねなどの道具や実験機器を使用する際は、繰り返しそれらの使い方を説明してから実験に臨むことができるよう、授業を展開する。</p> <p>・いくつかの観察・実験結果を比較する際には、共通点や差異点などの視点を児童が意識できるように促し、どうしてそのように考えたかなど自分の考えや理由を文章で表現し、相手に分かりやすく伝えることができるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「方位磁石の正しい使い方」の設問は、市の平均正答率よりも高い。</p> <p>●「かげのできる向きとかげふみで逃げるほうこうについて」の設問は、市の平均正答率よりも低い。</p>	<p>・かげのできる向きと太陽の関係など、日々の生活体験と関連付けられる視点を多く提供し、日頃から科学的な現象に対する興味・関心を高められるよう支援する。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●「むずかしい問題に出会うと、よりやる気が出る」と回答した児童の肯定的割合は60.3%で市の平均と比べて3.2ポイント、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」と回答した児童の肯定的割合は89.7%で市の平均と比べて7.7ポイント高く、意欲的に学習に取り組む児童が多い。一方、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した児童の肯定的割合は8割以上を占めているが、「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」と回答した肯定的割合は70.6%で市の平均と比べて14.3ポイント、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」と回答した児童の肯定的割合は76.5%で、市の平均と比べて4.8ポイント低い。授業において児童の興味関心が高まる発問の工夫を行うとともに、学習内容と日常生活との関連を図っていきたい。

○クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した児童の肯定的割合は89.7%で市の平均を6.3ポイント、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した肯定的割合は57.4%で5.4ポイント高かった。授業の中で意図的に言語活動を取り入れ、主体的に学ぶ児童の育成に努めた成果が表れていると考えられる。今後も話合いの場を積極的に設け、更に自分の考えを深めたり、広げたりできるようにしたい。

●「家で学校の授業の予習をしている」と回答した児童の肯定的割合は54.4%で市の平均と比べ3.3ポイント、「家で学校の授業の復習をしている」と回答した肯定的割合は58.8%で市の平均と比べ4.9ポイント低い。また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した肯定的割合は60.3%で市の平均と比べて2.7ポイント低い。家庭学習や自主学習の取り組み方を児童や保護者に積極的に伝え、家庭と連携を図りながら児童が主体的に家庭学習に取り組めるように努めたい。

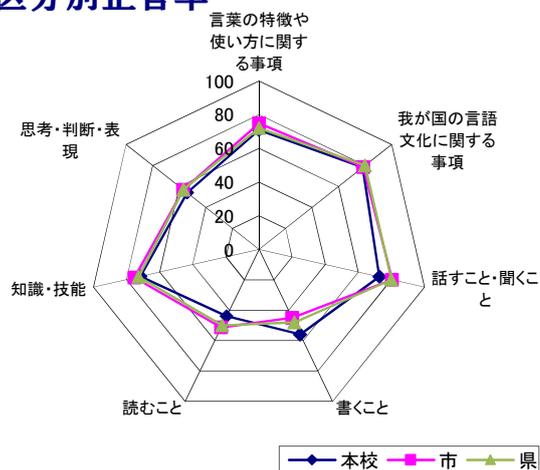
○「自分の行動や発言に自信をもっている」と回答した肯定的割合は72.1%で市の平均と比べ4.3ポイント高い。また、「むずかしいことでも失敗をおそれないで挑戦している」と回答した児童の肯定的割合は、83.8%で市の平均より3.1ポイント高い。授業の振り返りにおいて互いの良さや頑張りを伝え合う活動を継続して実施してきた成果と言える。今後も一人一人が成功体験や達成感を積み重ねていけるよう支援していきたい。

●「ふだん、1日当たりどれだけの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯、スマートフォンを使ったゲーム等を含む)をしますか」という質問に対して「平日に2時間以上3時間未満」と回答した児童の割合が市の平均と比べて10ポイント程高い。時間やきまり等、適切な関わり方について児童や保護者に啓発を図っていきたい。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.9	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.2	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	72.7	80.4	80.0
	書くこと	55.9	45.1	48.0
	読むこと	43.9	51.3	50.0
観点	知識・技能	71.6	75.2	72.8
	思考・判断・表現	54.1	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

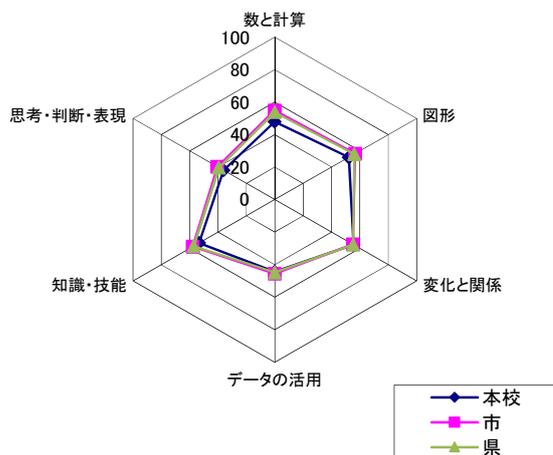
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○漢字の読み書きに関する問題については、設問により正答率にばらつきがあるが、書きについては定着していると考えられる。</p> <p>●熟語の組み合わせを理解して、熟語の意味をとらえることに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、家庭学習や朝の学習の時間などを活用して漢字練習やスキルの学習を行い、小テストで確認をしながら基礎的な漢字の読み書きの力を定着させていく。</p> <p>・各単元の学習の中で、文章中に出てくる熟語について指導する機会を意図的に作り、児童が熟語の意味を理解しながら文章を書いたり読み取ったりできるよう努める。</p>
情報の扱いに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>●慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることに課題が見られる。</p>	<p>・今後もことわざや慣用句など、我が国の言語文化に触れる機会を作り、身に付くよう働きかけていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えをまとめることができている。</p> <p>●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えたり、話し合いの目的を確認し意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・朝のスピーチや総合の発表のときなどに、聞き手が質問したり感想を伝えたりする活動を継続し、相手の話を真剣に聞き、要点を捉えることができるようにする。</p> <p>・話し合い活動を多く取り入れ、目的をはっきりさせながら話し合いに参加し、自分と違う考えに対しては、相手の意図を考えながら意見を聞くことができるように支援する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○アンケート結果を読み、自分の考えを指定された長さで文章を書くことができている。</p> <p>○内容の中心を明確にし、事実を伝える文や自分の考えを書くことができる。</p> <p>●段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書くことに課題が見られる。</p>	<p>・段落構成について復習し、構成を考えながら文章を書くことができるように支援する。</p> <p>・記述が苦手な児童には個別に対応して、適切な文章表現について指導及び支援をする。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○叙述を基に段落相互の関係を捉えることができている。</p> <p>●説明文の叙述を基に文章の内容を捉えたり、登場人物の性格についての分を読み具体的に想像したりすることに課題が見られる。</p>	<p>・物語や説明文を読み取るときに、文章の要点となるキーワードを押さえることを学級全体で行うなどして、中心となる事柄や場面の様子を読み取れるようにする。</p> <p>・朝の読書や図書館利用の時間を活用し、読書活動をより一層推進することで、叙述をもとに内容を捉えられるように支援していく。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	47.9	54.9	53.7
	図形	52.1	56.6	56.1
	変化と関係	55.5	55.1	55.2
	データの活用	44.4	45.5	44.8
観点	知識・技能	53.4	57.8	57.2
	思考・判断・表現	36.1	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

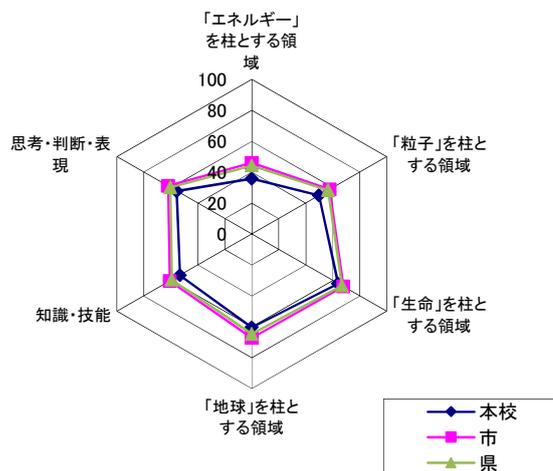
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●3けた÷2けた=2けた(余りあり)の計算問題では、余りの求め方に課題が見られる。</p> <p>●小数第一位×整数の計算問題では、積の小数点の打ち方に課題が見られる。</p>	<p>・わり算やかけ算については、計算ドリルやプリント等を用いて反復練習を行い、知識の定着を図るようにする。</p> <p>・わり算の計算の仕方を理解していても、余りに小数点を書き忘れてしまうこともあるので、式の整数化によって余りの位も動いたことを確認させる。</p> <p>・かけ算の計算の仕方を理解していても、積に小数点を書き忘れてしまうことがあるので、整数にするために10倍した分、積を10分の1にするということを確認させる。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●180°より大きい角の大きさの求め方に課題が見られる。</p> <p>○複合図形の面積の求め方では、問題文のゆみさんの式の意味を考慮することができている。</p>	<p>・分度器による角度の測定の仕方を復習するとともに、「180°より〇°大きい」「360°より〇°小さい」という見方を確認し、反復練習を行わせる。</p> <p>・複合図形の面積を求める問題では、図をもとに分割したり、補ったりすることに着目して、自ら立式したり、説明したりできるよう、復習を行っていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市とほぼ同じである。</p> <p>○表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることができている。</p> <p>●表を縦に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことには課題が見られる。</p>	<p>・伴って変わる2つの数量の関係を表を横に見ることで、2つの数量の関係性を捉えることができ、表を縦に見ることで、2つの数量の関係性を式に表すことができるということを確認し、伴って変わる2つの数量の関係を表や式に表す活動を繰り返し行っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○二次元の表の意味を理解し、問題文で指定された場所の数が何を表しているか答えることができている。</p> <p>●折れ線グラフから、変化の様子を正しく読み取ることに課題がある。</p>	<p>・折れ線グラフの縦軸の目盛りについて、1目盛りの大きさを変えたり、波線を用いて途中を省略したりして、変化の様子を強調することができるということを確認させる。</p> <p>・気付いたことや考えたことを説明したり、発表したりする場を多く設定し、自分の気づきや考えを言葉や数を使って表現することに慣れていくようにする。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	35.8	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	49.8	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	64.0	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	60.4	67.2	64.6
観点	知識・技能	53.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	55.7	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●乾電池の並列つなぎの名前や電流の強さの特徴を理解しているかを問う問題に課題が見られる。 ●簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解しているかを理解しているかを問う問題について課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の必要項目の一部分のみ理解しているなど、知識・技能の定着に課題が見られる。既習事項についても繰り返し問題に取り組みさせることで、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図っていく。 ・視覚的に理解できるよう、掲示物や映像資料等を活用し、基礎・基本の定着を図っていく。
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○物のあたままり方についての実験において、仮説が正しかった場合に得られる実験の結果を構想し選択する問題はできている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●金属をあたためた時の体積の変化について、身近な出来事と関連付けて選択する問題について課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題に課題が見られるため、体験的な活動を通して理解したことを、自分の言葉で表現する力を育てていく必要がある。今後も、体験的な活動を取り入れ、理解を深めるとともに、キーワードを使って自分なりに分かったことをまとめる学習を継続的に行っていく。 ・基礎基本を丁寧に指導していくと共に、実生活とを関連付けた授業を展開できるよう、指導の改善を図っていく。
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関節の名称について短答する問題は、他の問題と比較すると正答率が高かったが、市の平均と比較すると10ポイント以上低い。 ●季節の順にイチョウの記録を選ぶ問題では、正答率が低く課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な問題については正答率が高いので、引き続き基礎基本を丁寧に指導し、さらに正答率が上がるようにする。 ・季節と植物のようすについて理解を深めるため、教科書の写真資料だけでなく、映像資料等を積極的に活用し、児童が植物の成長をイメージできるようにする。
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○排水口が低くなっている理由を選ぶ問題並びに星座の動きと並び方を選ぶ問題はよくできている。学習したことを身近な出来事や事象と関連付けて考えることができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●空気中の水蒸気が冷やされると液体の水になることを記述する問題並びに星の色について記述する問題について課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想、実験、結果、考察の手順を丁寧にいき、事象とその理由のつながりを意識した学習を継続していく。 ・記述式の問題に課題が見られるため、普段の授業の中で実験結果を自分でまとめる等書く学習にも力を入れていく。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合は69.4%で市を9.3ポイント、「学校の宿題は、やりたくない内容だ」の肯定割合は62.5%で市を4.1ポイント、それぞれ上回った。ドリル学習のほか、クロームブックを活用した宿題を出してきた成果であると考えられる。今後も、児童の実態に応じた宿題を提供していきたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定割合は87.5%で市を4.1ポイント、「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定割合は71.4%で市を3.1ポイント上回った。学習のねらいを明確にして探究的学習を取り入れた授業づくりを進めてきた成果が表れている。これからも、子供たちから生まれる問いを大切に授業を展開していきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は80.4%で市を3ポイント、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定割合は87.5%で市を3.5ポイント上回った。意欲的に発言する児童が多いので、今後も発表する機会を確保した授業を展開できるよう努めていく。

○「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」の肯定割合は83.9%で市を8.1ポイント、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定割合は67.8%で市を4.6ポイント上回った。教育相談等で子供たち一人一人のよさを認め、励ましてきた成果が表れている。今後も、子供たちがよさを伸ばしていけるよう、指導の充実を図りたい。

○●「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ)」の設問で1時間以上勉強をしている児童の割合は53.6%で市を3.3ポイント上回った。一方、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問で1時間以上勉強をしている児童の割合は46.4%で市を0.9ポイント下回った。平日の学習時間を維持しつつ、休みの日の学習時間の向上を図れるよう指導していく。

●家庭学習については、「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定割合は51.8%で市を1.2ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定割合は60.8%で市を1.4ポイント下回った。宿題は多くの児童が忘れずに取り組んでいるが、授業の予習・復習など自主学習への取組が十分ではない。家庭学習に意欲的に取り組んでいる児童のノートを紹介するなどして、宿題以外の家庭学習が充実するよう、啓発していく。

●「家でのおきまりや約束を守っている」の肯定割合は85.7%で市を5.7ポイント下回った。児童の生活面での規範意識を高めていくとともに、生活習慣について家庭でも声掛けを行ってもらえるよう、学級懇談会や学年だより等を通して啓発していきたい。

宇都宮市立陽南小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数、習熟度別など、単元や活動に応じて、TTを効果的に活用した個に応じた指導を行う。 ・朝の学習の時間にAI型学習ドリルの活用も含めた国語・算数の学習を行ったり、授業において漢字のミニテストや計算練習等を繰り返し行ったりするなど、学習内容の確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きや計算に関して、定着に個人差が見られる。 ・4年生、5年生共に、国語の読むことや書くことにおいて課題が見られる。特に4年生は、2段落構成で文章を書くなど、指定された長さで自分の考えを書くことにおいて、課題が見られる児童が多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4、5年とも「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と考えている児童が多い傾向にある。	児童の自己表現力を高める言語活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書く学習を意図的に取り入れ、課題に合った表現方法を発達段階に応じて身に付けられるように指導していく。また、その基本となる漢字やかなの正しい表記や文法なども併せて指導する。 ・少人数での話し合い活動を通して、自分の考えを交流することにより、考えに根拠をもてるようにしたり、全体で発表する際の抵抗を減らしたりして、自信をもって意見を発表できるようにする。